

石鹼は地球を救うか

都市計画局 阿部 豊

先日、調査季報一〇七号に「地球を救う127の方法・日本版を作ってみて」なる記事が掲載され、大変興味深く拝見させて頂いた。しかしながら、その127の方法の五十番目に「合成洗剤ではなく、石けんを使う。」とあったのを見て、おもしろいと思ひをこめてしまった。「これは本当に地球を救う方法なのだろうか。」揚げ足取りになるが、私見を述べたい。

洗剤による環境破壊が広く議論されるようになってから久しい。初めは、洗剤に含まれるりん酸塩による閉鎖水域の富栄養化現象（アオコや赤潮の異常発生）がクロージアップされ、洗剤の無りん化により解決が図られた。更に、洗剤の主成分をなす界面活性剤の公共水域への排出に伴う水質汚濁が広く認識さ

れるところとなった。今日まで、合成洗剤に代えて石鹼の使用が推奨されて来ている所以である。即ち、石鹼の主成分である脂肪酸系界面活性剤は、合成洗剤に比べて微生物による生分解性が良く、環境破壊の度合いが少なくと考えられたからである。

しかし石鹼が、合成洗剤にはない環境破壊要素を持っていることは、意外に認識されていない。それは、「石鹼カス」が発生することである。この石鹼カスは、単に洗面所や洗濯機を汚すだけでなく、ヘドロ状になって水底へ沈殿し、容易に分解されない厄介な代物である。そのため石鹼の使用量が増加すれば、本下水の入っていない所では公共水域のヘドロによる汚濁の原因となり、本下水の入っている所では処理困難な汚泥が処理場で大量に発生し、結局新たな問題を抱え込む羽目になるのだ。

合成洗剤に使われる界面活性

剤は、かつて生分解性の悪いABSが主流だった。しかし、今日では、生分解性に優れたLASなどを使用したソフト洗剤と呼ばれる合成洗剤が多く出回るようになって来ている。合成洗剤といってもソフト洗剤は、石鹼カスの発生がない分、石鹼より環境に与える影響は少なく、従って地球を救う127の方法の五十番目は変更されなければならぬのである。

人間のやることに完全はない。環境保全のため良かれと思っただけで別の環境破壊をもたらすことは往々にしてある。我々は、自らの行動の結果に対する不断の検証を怠ってはならないと思うものである。

一〇七号アンケート

- 1 今回のテーマについて 瀬谷区役所 佐藤純子
- 2 今回の執筆のバランスがとれていないと思う 興味があつた 執筆者のバランスがとれていないと思う
- 3 今回の内容について 確かに専門的内容は理解が大変ですが、現状がどうなっ

ているかを客観的に知ることが必要なので、ある程度やむを得ないと思う。その分アリスセンターの記述は身近な記事でした。

4 調査季報の読み方について 係に回ってきた時は読みますが、入手方法はどのようなですか。

(答)職員の方には、都市科学研究室からお送りします。その他、刊行物サービスコーナーでも扱っています。

5 調査季報には、行政研究欄など自分で調査、研究している論文を発表する場がありますが、ご存知ですか。

知らなかった。 6 今後調査季報で取り上げて欲しいテーマがありましたらお書き下さい。

○ゴミ問題……ゴミ焼却場の見学で終わらせてはならない。 ○環境問題と教育とのかわり……次ぎの世代の大人である子供の意識を育てることが大切

○パート2、パート3……と続刊を期待しています。 ○ライフスタイルを具体的に

変えるためには、意識の変革が必要です。二十一世紀は人類の意識、内面の変革の時代といわれているので、その点も掘り下げて欲しいです。

7 調査季報に対する希望、意見を お書き下さい。 テーマの内容によっては必ずしも読み易いとはいえないが、興味あるテーマの時は、大変貴重な記事が載っています。今回も非常に参考になりましたし、横浜市も環境問題を考え始めたかな？とうれしくなりました。今年の夏、横浜で開かれた環境問題のシンポジウムをテレビで見ましたが、行政側の代表者の発言が一番面白かったので。

「調査季報」は職員が自由に意見を発表し討論する行政研究誌です。「行政研究」への投稿も歓迎します。二〇〇字詰五〇枚以内。都市科学研究室まで（電話六七一一二二九）。

この「読者のページ」へもご投稿ください。市政、都市問題、自治体問題等、題材は自由。一〇〇〇字以内。